

令和3年度第5回富里市地域公共交通会議

会 議 録

日 時 令和4年2月21日（月）午後1時30分
場 所 富里中央公民館4階 大会議室

（委員）

所 属	氏 名	出 欠
富里市 副市長	山根 康夫	○
富里市 総務部長	粕谷 幸夫	○
富里市 企画財政部長	山室 俊夫	○
富里市 健康福祉部長	森 秀樹	○
富里市 経済環境部長	長谷川 敏彦	○
富里市 都市建設部長	相川 裕史	○
富里市 教育部長	金杉 章子	○
千葉交通株式会社 取締役兼自動車部長	河合 俊彦	○
京成タクシー成田株式会社 取締役社長	藤倉 孝一	○
千葉交通労働組合 書記長	伊藤 賢	○
一般社団法人千葉県バス協会 専務理事	成田 斉	○
国土交通省関東運輸局千葉運輸支局 首席運輸企画専門官	佐藤 義尚	○
千葉県総合企画部交通計画課 企画調整班班長	渡邊 彰	×
成田警察署 交通課課長	中田 真史	○ (代理：村山)
公募市民	寺井 繁樹	○
公募市民	岡野 肇	○
富里市区長会	長谷川 英利	×
富里市シルバークラブ連合会	相馬 きよ子	○
富里市PTA連絡協議会	伊藤 智美	○
日本大学理工学部 教授	轟 朝幸	×
日本大学理工学部 准教授	伊東 英幸	○
成田国際空港株式会社 地域共生部長	高梨 弘子	○ (代理：榎本)
富里市社会福祉協議会 会長	宮川 朱実	×

《事務局》

- ・富里市企画財政部企画課：永田課長、土屋課長補佐、太田副主幹、渋谷主査補

《配布資料》

- ・ 次第、委員名簿、席次
- ・ 資料 1 : 富里市地域公共交通計画 素案（概要版）
- ・ 資料 2 : 富里市地域公共交通計画（素案）
- ・ 資料 3 : さとバスの見直し・デマンド交通の拡充について

《その他》

- ・ 今後のスケジュール

次 第	
▶	令和 3 年度第 5 回富里市地域公共交通会議
1	開 会
2	挨 拶
3	議 題
(1)	富里市地域公共交通計画（素案）について ----- 資料 1、資料 2
(2)	さとバスの見直し・デマンド交通の拡充について ----- 資料 3
4	その他
5	閉 会

1 開 会

- 事務局が開会を宣言。
- 富里市地域公共交通会議傍聴規程に基づき、傍聴者7名入室。

2 挨拶

- 会長挨拶

3 議 題

- (1) 富里市地域公共交通計画（素案）について
（資料1を事務局が説明）資料2については補助資料

【意見概要】

●質問

- ① 事業②③について、さとバスの見直しはデマンドに転換するということか。
- ② 事業④市役所の結節点強化とあるが、富里バスターミナルの結節点については、どのように考えているか。
- ③ 事業⑦成田空港へのアクセスについて、起点をどこに考えているのか。
- ④ 事業⑨新たな交通システムについて、ソフト面とハード面のイメージはあるのか。
- ⑤ 事業③ドア・ツー・ドアについて是非、拡充していただきたい。
- ⑥ 事業⑩グリーンスローモビリティについて、どのような車両を想定しているか。また、運転手はどのような考えがあるか。
- ⑦ 市民のニーズにマッチとあるが、市民のニーズは社会動向により変化してくる。
- ⑧ 第5章で役割分担イメージ図があるが、各区分の分け方で良いのか。
- ⑨ 事業⑧について、地域が主体となつてとあるが、事業⑨について、ボトムアップを想定しているなら事業⑧に取り入れて良いのではないのか。

【事務局】

- ① さとバスを新デマンド交通に転換し運行していきたいと考えています。
- ② 富里バスターミナルについては、パークアンドバスライド整備がされており、高速バスの乗入れがあり、広域移動の拠点としております。市役所につきましては、民間路線バスに乗入れ、市役所を起点として離発着を可能とすることで機能強化が図れればと考えております。
- ③ 機能強化に伴い4万人の従業者の増加が見込まれる中で、成田空港へのアクセスは重要であると考えております。起点については、事業の採算性を考慮し、検討してまいります。
- ④ 新たな交通システムについては、全国の事例を基に、市民の方と一緒に考えていきたいと思っております。
- ⑤ 高齢化が進んでいる中で、高齢者に優しいドア・ツー・ドアを民間事業者と役割分担をしながら、実証運行として展開していきたい。
- ⑥ カート式の車両を想定しています。運転手については、地域による地域運行が実現できないかと考えております。
- ⑦ 市民ニーズの変化については、動向に注視し、成長するプランとして進めてまいりたいと考えております。
- ⑧ 役割分担イメージ図について、再度検討してまいります。
- ⑨ 計画策定に向け、修正できるところは修正してまいります。



(2) さとバスの見直し・デマンド交通の拡充について

(資料3を事務局が説明)

【意見概要】

● 質問

- ① さとバスを廃止し、デマンド交通に転換することは承知している。乗降ポイントで成田駅について、バス事業者に接触、影響が大きいと考えている。高齢者の外出を阻害する考えはないし、ドア・ツー・ドアの考えも分かるが、65歳以上の免許返納者について、高齢者だと思わない。このことから、バス事業の持続可能が難しいと考える。
運賃について、他市の事例から、デマンド交通の料金設定をする上で、バス事業者の最大運賃を下回らないようにするのが、通常だと思う。
- ② 市外全域となっているが、発着すべて全域なのか。
- ③ バス停利用圏域300mから外した地域は、ドア・ツー・ドアについても同様の考え方か。
- ④ 利用者見込の増加は。
- ⑤ 車両の確保台数は。
- ⑥ 運行計画の策定スケジュールについて。

【事務局】

- ① 今後、民間交通事業者と更なる協議を進めさせていただきます。
- ② バス停利用圏域300mから外した地域と考えております。
- ③ 75歳以上と対象年齢制限を設定し、バス停まで歩くことが難しい方を対象としていることから、利用圏域内の自宅であっても乗降可能と考えております。
- ④ 全国的な事例を基に、20%の増加を見込んでおります。
- ⑤ 現デマンド交通と同様の7台を確保していくこととしていますが、今後、あらたな契約を締結する中で、7台以上の車両が必要となった場合のケアが可能な契約内容とできればと考えております。
- ⑥ 許認可等の期間を踏まえ、運行計画を策定したいと考えております。

4 その他

○事務局

- ・今後のスケジュールについて説明。

5 閉 会

-以上